

【注意点1】

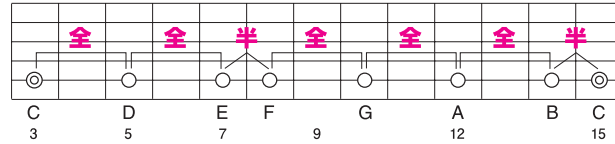


メジャー・スケールの構成を頭に叩き込もう!

まずは、メイン・フレーズで使用しているCメジャー・スケールを紹介しよう。Cメジャー・スケールとは、いわゆる“ドレミファソラシド”のことで、7つの音によって構成されている(図1)。スケール音は、ギターの指板上に無数に存在するので、ビギナーは図1のようなポジション図を使って、使用する音のみを確認するのがお勧めだ。

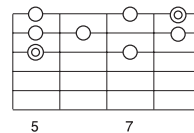
図1 メジャー・スケールとは

(例 Cメジャー) ◎トニック=C音



※“全=全音”とは2フレット分、“半=半音”とは1フレット分の音程となる。

・メイン・フレーズのポジション図



【注意点2】



人差指の使い方がカギ!? 薬&小指を的確に動かせ

メイン・フレーズ3小節目では、小指と薬指の運指がポイントになる(写真①~④)。一般的に薬指と小指は力を入れにくいので、人差指を5フレットに軽く置いておくと、フィンガリングのバランスが取れるようになるので、動かしやすくなるだろう。また、1拍目(3弦5フレット)の人差指の押弦時に、小指を8フレット付近に待機させておくとよい。



3小節目1拍目。3弦5fを人差指で押さえよう。



指をやや広げて、1弦8fを小指で押弦する。



続いて、7fを薬指で押さえよう。人差指は5f付近に置く。



小指を2弦に移して、8fをしっかり押弦しよう。

【注意点3】



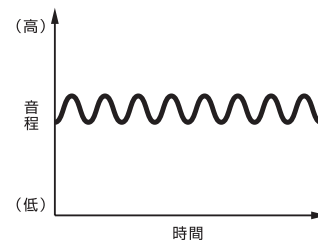
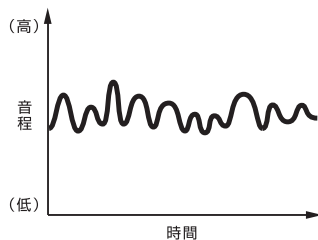
不規則な変化はNG! ビブラートの正しい掛け方

メロディ弾きでは、ビブラートを使って表情をつけることが大切なポイントになる。最も基本的なビブラートの弾き方は、チョーキング(P.46を参照)のアップとダウンをくり返すことになるが、音程変化の波が不規則にならないように気をつけよう(図2)。まずは、一定の周期でビブラートが掛けられるように練習をしてみたい。

図2 ビブラートの周期

× 音程変化が不規則

○ 音程変化が一定



【スケール】 高さの順に並べられた1オクターブ以内の階段状の音列のこと。たくさん覚える必要はないが、頭に入れておくと、ギター演奏はもちろん、作曲やアレンジにも役立つ。